

令和元年度決算がまとまりました

納付金が保険料収入の
4割を占める
厳しい結果に

第119回組合会において、当健保組合の令和元年度決算が可決・承認されましたので、お知らせします。

高齢者医療費の重い負担が
財政悪化の要因に

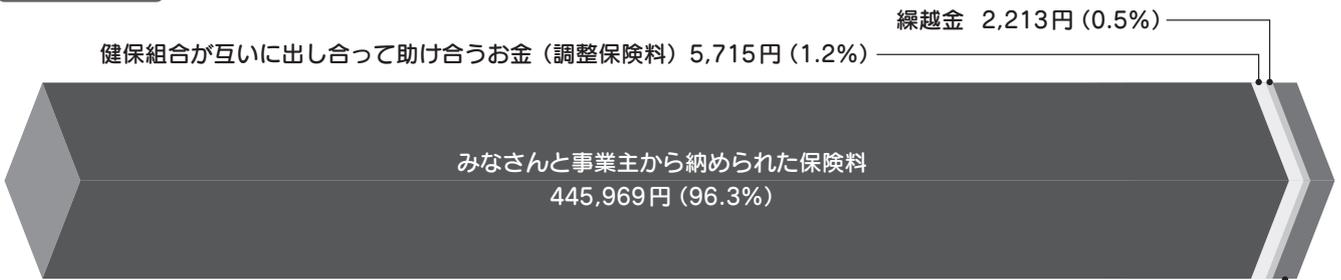
私たちの健保組合は、現在、厳しい状況に置かれています。新型コロナウイルスの感染拡大による景気後退を受け、健保組合の財源となる保険料収入が減少する一方、高齢者医療制度への過重な負担により、多くの健保組合で保険料率を引き上げなければ運営が行えない事態となるなど、現役世代の負担が膨らみ続けています。

追い打ちをかけるように、2年後の令和4年から、団塊の世代が75歳に到達し始め、これにともなつて、後期高齢者支援金が増大することが予想され、健保組合など医療保険全体において財政の急激な悪化が危惧されています。

明るい先行きが見通せないなか、当健保組合の令和元年度の決算がまとまりました。収入総額25億1151万円、支出総額24億3159万円、差引収支額は7993万円となり、経常収支にお

被保険者1人当たりでみた収支決算（健康保険）

収入合計 463,208円



その他 9,311円 (2.0%)

支出合計 448,467円



健保組合が互いに助け合うための拠出金 5,696円 (1.3%)

※四捨五入のため、一部合計の合わない箇所があります

令和元年度収支決算概要

○健康保険○

■収入

科 目	決算額(千円)
みなさんと事業主から納められた保険料	2,418,042
健保組合が互いに出し合って助け合うお金 (調整保険料)	30,986
繰 越 金	12,000
そ の 他	50,486
合 計	2,511,514

■支出

科 目	決算額(千円)
病气やけがやお産をしたときに 健保組合が負担した保険給付費	1,254,987
高齢者の医療に使われた納付金	978,781
健康づくりに使われたお金(保健事業費)	116,708
健保組合が互いに助け合うための拠出金	30,882
そ の 他	50,230
合 計	2,431,588

○介護保険○

■収入

科 目	決算額(千円)
みなさん*と事業主から納められた 介護保険料	245,509
繰 入 金	8,942
雑 収 入 等	3,419
合 計	257,870

■支出

科 目	決算額(千円)
国に納める介護納付金	255,704
合 計	255,704

*介護保険第2号被保険者たる被保険者等



いても、経常収入額24億2223万円、経常支出額24億71万円で、経常収支差引額は2153万円の赤字で終わることができました。

保険料収入が減少の一方、医療費支出は増加に

収入では、そのほとんどを占める保険料収入が前年度より7344万円減少の24億1804万円となりました。これに前年度からの繰越金1200万円もあて健保組合運営の財源としました。

支出では、医療費などの保険給付費が12億5499万円となり前年度比3960万円の増加、また、前期高齢者納付金や後期高齢者支援金など、高齢者の医療費にあてられた納付金については前年度より1億63万円減少の9億7878万円となりました。納付金は金額こそ減少したものの、保険料収入の4割を占め、こうした過重な負担の傾向は長年にわたって続いており、財政を苦しめる要因となっています。みなさんの健康づくりをサポートする保健事業費は前年度とほぼ同額の1億1671万円で、各種健診や保



養所利用の費用補助を行いました。

これらの結果、令和最初の決算は赤字となりましたが、健保組合の財政は、社会経済情勢によって大きく影響を受ける保険料収入に対し、保険給付費や納付金負担などの支出が収入を上回らない状況にあり、厳しい運営を強いられています。みなさんどうかこの現状をご理解いただくとともに、ウォーキングなどの体力づくりや栄養バランスのとれた食事、十分な睡眠などで健やかに過ごしてください。また、ジェネリック医薬品の利用や時間外受診をなくすなど、医療費の節減にご協力をお願いいたします。